

原発再稼働を歓迎し、 自然エネルギーを否定する葛西会長

またぞろ、原発推進発言を行った葛西会長。今度は、大飯原発の再稼働を歓迎する一方、自然エネルギーを真っ向から否定するというトンデモ発言なのです。その掲載記事が7月8日付『読売新聞』の「地球を読む」です。

「日本経済の体力維持のためには、…安定的に電力を供給する必要がある…現有原発の活用は必須である」「放射能恐怖と反原発ムードが過剰に浸透し、…稼働原発ゼロという最悪の事態に至った」との主張です。日本経済を台無しにしたのは原発事故ではなかったのではないのでしょうか。稼働原発ゼロが最悪の事態とは一体何のことでしょうか。葛西会長は放射能は怖くないのでしょうか。福島第一原発事故の収束の目処が一切立たず、避難住民が多大なる犠牲を強いられている中で、このような発言は断じて許してはなりません。

更に葛西会長の持論は続きます。「浜岡原発は国の安全基準に則って建設・運転されている」とした上で、浜岡原発の運転停止を要請した菅前首相を猛烈に糾弾しています。そして、「自然エネルギー利用が促進されれば、原発を止めても代替できるという幻想が生まれた。これは、自然エネルギーについて知識不足としか言いようがない」と言うのです。では逆に問うが、福島第一原発は国の安全基準に則っていなかったとでも言いたいのでしょうか。浜岡原発はなぜ防波壁を建設するのでしょうか。原発に幻想を抱いているのも、知識不足も葛西会長自身ではないのでしょうか。葛西会長の根底には、リニアや核開発のために原発を稼働させようという
よこしま
邪な考えがあることは明白です。



繰り返される原発推進発言を許さなごう！